

『東京物語』(とうきょうものがたり)は、1953年に公開されたモノクロの日本映画である。監督は小津安二郎、主演は笠智衆と原節子。『晩春』(1949年)、『麦秋』(1951年)、『東京物語』(1953年)で原節子が演じたヒロインはすべて「紀子」という名前であり、この3作品をまとめて「紀子三部作」と呼ぶことがある。昭和28年度文化庁芸術祭参加作品。上映時間 136分

#### あらすじ

尾道に暮らす周吉とその妻のとみが東京に出掛ける。東京に暮らす子供たちの家を久方振りに訪ねるのだ。しかし、長男の幸一も長女の志げも毎日仕事が忙しくて両親をかまてやれない。寂しい思いをする2人を慰めたのが、戦死した次男の妻の紀子だった。紀子はわざわざ仕事を休んで、2人を東京名所の観光に連れて行く。周吉ととみは、子供たちからはあまり温かく接してもらえなかったがそれでも満足した表情を見せて尾道へ帰った。ところが、両親が帰郷して数日もしないうちに、とみが危篤状態であるとの電報が子供たちの元に届いた。子供たちが尾道の実家に到着した翌日の未明に、とみは死去した。とみの葬儀が終わった後、志げは次女の京子に形見の品をよこすよう催促する。紀子以外の子供たちは、葬儀が終わるとそそくさと帰って行った。京子は憤慨するが、紀子は義兄妹をかばい若い京子を静かに諭す。紀子が東京に帰る前に、周吉は上京した際の紀子の優しさに感謝を表す。妻の形見だといって時計を渡すと紀子は号泣する。がらんとした部屋で一人、周吉は静かな尾道の海を眺めるのだった。

1937年日本公開のアメリカ映画『明日は来らず』(レオ・マックリー監督)を下敷きにしている[5]。アメリカの物語を普遍的なものにして、アジア人と西洋人がともに納得できるものにした。

#### スタッフ

監督：小津安二郎

脚本：野田高梧・小津安二郎

製作：山本武

#### キャスト

平山周吉：笠智衆 尾道に妻と次女と共に暮らしている。

とみ：東山千栄子(俳優座) 周吉の妻。

紀子：原節子 戦死した次男の妻。アパートで暮らしている。

金子志げ：杉村春子(文学座) 周吉の長女。美容院を営む。

平山幸一：山村聡 周吉の長男。内科の医院を営む。

文子：三宅邦子 幸一の妻。

京子：香川京子 周吉の次女。小学校の教員。

沼田三平：東野英治郎(俳優座) 周吉の旧友。

金子庫造：中村伸郎(文学座) 志げの夫。

平山敬三：大坂志郎 周吉の三男。国鉄に勤務している。

服部修：十朱久雄 周吉の旧友。

よね：長岡輝子(文学座) 服部の妻。

おでん屋の女：桜むつ子

隣家の細君：高橋豊子 周吉の家の隣人。

鉄道職員：安部徹 敬三の同僚。

アパートの女：三谷幸子 紀子の隣室に住んでいる。